

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	兼武 道子		
NAME	KANETAKE, MICHIKO		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) 19世紀後半以降のイギリスにおける女性文学者によるギリシア古典の受容

(英文) The reception of Greek civilisation by late nineteenth-century British women writers

2. 研究期間

2022年度 ～ 2023年度

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

(背景) 19世紀後半のイギリスでは、民主主義的価値観を持った世界帝国という自己認識を、古典期のアテネに重ね合わせた Victorian Hellenism のイデオロギーが隆盛であった。帝国を支える特権階級のエリート男性が古典ギリシア語の習得を行い、ギリシア文化を継承するというのが自明のことであった。そのようなイデオロギーによってギリシア文化の受容から体系的に排除されてきた女性たちも、個々人の努力によってギリシア語を身につけ、ギリシア文化を受容してきた。(目的) 本研究は、ギリシア文明と関わりを持った19世紀後半の女性たちの作品を読解・批評することによって、男性エリートによる一枚岩的なギリシア文明受容という概念に多様性を持ち込むことを目的とした。(内容) 本研究では、Christina Rossetti の中編詩“An Old-World Thicket”に注目した。これまでの研究においては、この作品はロマン派的な自然を描写したのものとして論じられてきた。しかし古典文学の視座を持ち込んで読解すると、この作品に描かれている「自然」は、古典文学の locus amoenus を描いているのであり、ロマン派的な個別・具体的な自然ではなく、典型的なものであることが分かった。(成果) このことを論文にまとめ、発表した。

(英文)

In Nineteenth-century Britain, British elites identified their own culture and civilisation with those of Athens in the Classical period, based on their self-recognition as a world empire with democratic values. This ideology is called “Victorian Hellenism.” Within this ideology, studies of Greek language and culture were virtually monopolised by elite men. However, there were some women who related themselves with Greek and classical studies. In this study, I focused on Christina Rossetti’s poem “An Old-World Thicket” as an example of the reception of the classical civilisation by a woman writer. Critics have discussed this poem within the context of Romanticism and compared nature depicted in this poem with those described by Romantic works. I argued that this poem is at some removes from the Romantic notion of nature, and rather than committing itself to the Romantic context, it draws on the classical and literary topos of “locus amoenus.”